

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス トレトレ		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが自分のしたいこと好きなことを見出すまで、じっくりと待ち、感覚統合理論をもとにして、運動療育を進めていること	感覚統合を促す遊び道具や遊び場をスタッフが考えて作成している。また、地域にある公園などを子どもたちのフィールドであると考えて、自施設だけでなく、フィールドを広げるという発想で、子どもたちと活動している。	トレトレワンダーランド計画と銘打って、子どもたちと話し合いながら、どんな遊び場がくれたらいいだろうかと作戦会議を開いている。
2	子どもたちの意思決定を尊重し、子ども自身が試行錯誤したり、失敗から学ぶ環境を生み出していること	自分が何で遊ぶのかを子どもが主体となって決めている。スタッフは子どもを見守り、寄り添いながら、子どもの失敗を奪うことがないようにしている。取り返しのつく失敗は貴重である。そこから生まれる試行錯誤が子どもの力を伸ばしていく。	子どもたちがこれはおもしろそうだとわくわくするような遊び場環境を工夫している。また、土曜日や休日など、時間が長く確保できるときには、山登りやハイキング、川遊びなど、自然から学ぶことができるようにしている。
3	スタッフ一人一人が、子どもと正面から関わり、子どもひとりひとりのよさと出会い、子どもとの信頼関係を築き、それを基盤にして成長と発達に寄与していること	スタッフが子どもと接するとき、その子に信頼を置くことが基礎である。そのためにはスタッフの気持ちが前向き、肯定的である必要がある。そういうスタッフ自身の自分の在り様を日々の仕事の中で吟味できるような時間を見出している。	トレトレグループでは多くの研修を実施している。若手だけの研修であったり、各施設ごとの研修であったり、全体研修だったりする。これらの研修がより深まるように講師陣の整備を進めている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	次代を担うスタッフの力量向上を果たすこと	次世代のトレトレグループを担っていくスタッフを育成するには、時間や手間がかかるが、日常の業務に手いっぱいになり、未来への投資としての人材育成が十分に行っていない。	日常の業務の中、子どもたちとの実践の場で、臨場感を持ってスタッフが学ぶ機会を確保することが必要である。毎日、短い時間であっても、スタッフが自己を振り返り、自己向上の道筋を見い出せるようにしていく。
2	保護者支援への道筋を多様につくっていくこと	保護者にもお仕事があり、情報共有をする時間がなかなか見出せない現状がある。ハグシステムで1日の様子を知らせているが、見ていない保護者もいるので、できるだけ声をかけていく必要がある。	トレトレグループとして保護者参加の研修会やイベント、ランチ会などを企画して、できることから支援の糸口を見出していく。
3	他の放デイや自発、福祉団体と連携していくこと 地域の人々と様々に交流していくこと	地域にある放デイだと、なかなか連携しにくい。まず、お互いが出会う場にスタッフが外向き、縁を得ることから連携が始まることが多い。地域の人々とは公園で出会うことがある。こちらからどんどん声をかけていき、放デイの存在を知ってもらうことから始めている。	福祉団体の主催するフェスティバルやマルシェなどに積極的に参加している。トレトレグループ主催のイベントにも取り組んでいる。時間をかけてひとつひとつじっくりと実施していきたい。